

長い文を分けよう

🔍 たしかめ --- 🗨️ いっしょに --- ✎ やってみよう (3もん)

📖 きょうの
めあて

長い文を二つに分けたり、短い文をつないだりして、読みやすくしよう

🔍 まず、たしかめよう

- 長すぎる文は、**二つに分けて**つなぐ言葉を使うと、読みやすくなる。
- 本を借りて帰りに公園によったら雨がふってきた。→
本を借りて、帰りに公園によった。すると、雨がふってきた。

🗨️ いっしょにやってみよう

れい 「ねぼうしたので急いだがバスに乗りおくれた。」を二つに分けると？

① 「ので」「が」
でつながっている。

② 「が」の所で分ける。

③ ねぼうしたので
急いだ。しかし、
バスに乗りおくれた。

✎ やってみよう

♡ できたところまででOK

① 二つの文に分けるととき、□に入るつなぐ言葉は？

風が強くなったので、まどをしめた。

→ 風が強くなった。□、まどをしめた。

☐ だから

☐ しかし

☐ または

② 二つの文を、「ので」を使って一つの文にしよう。

道がこんでいた。 とう着がおくれた。

③ 長い文を、二つの文に分けて書こう。

かぎを取りにもどったが電車はもう出ていた。

答え

1. だから 2. 道がこんでいたので、とう着がおくれた。
3. 例：かぎを取りにもどった。しかし、電車はもう出ていた。

都道府県名の漢字

たしかめ いっしょに やってみよう (3もん)

きょうの
めあて

都道府県名に使われる4年の漢字を、読んで書こう

まず、たしかめよう

- 4年では、都道府県名に使われる漢字を学ぶ。
- 茨城・栃木・群馬・埼玉・新潟・富山・福井・山梨・岐阜・静岡・滋賀・奈良・大阪・香川・愛媛・佐賀・長崎・熊本・鹿児島・沖縄

いっしょにやってみよう

れい 「にいがた」を漢字で書くと？

① 「にい」は「新」。

② 「がた」は4年で学んだ「潟」。

③ 答え 新潟

やってみよう

できたところまででOK

① 線の都道府県名の読みがなを書こう。

(1) 愛媛県

(2) 岐阜県

(3) 滋賀県

(4) 大阪府

② □に漢字を書こう。

(1) ^{くま}□ 本県

(2) ^{おき}□ ^{なわ}□ 県

(3) ^{さい}□ 玉県

(4) ^か□ 川県

③ 「府」がつくのは？

☐ 大阪

☐ 奈良

☐ 佐賀

答え

1. (1) えひめ (2) ぎふ (3) しが (4) おおさか 2. (1) 熊 (2) 沖縄 (3) 埼 (4) 香 3. 大阪

漢字（自然）

たしかめ いっしょに やってみよう（3もん）

きょうの
めあて

自然に使う漢字「景・観・然・漁」を読んで書こう

きょうの漢字

音 ケイ
けしき ふうけい
景色・風景
「景色」は
「けしき」と読む

音 カン
かんさつ かんこう
観察・観光

音 ゼン・ネン
しぜん てんねん
自然・天然

音 ギョ・リョウ
ぎょぎょう りょうし
漁業・漁師
左は さんずい

いっしょにやってみよう

れい 魚をとる仕事の人「りょうし」を漢字で書くと？

① 「漁」は
さんずいに「魚」。

② 「し」は「師」。

③ 答え 漁師

やってみよう

できたところまでで OK

① 線の漢字の読みがなを書こう。

(1) 山から見た夜景がきれいだ。

(2) 観光地をめぐる。

(3) 自然を守る。

(4) 漁船が港に帰る。

② □に漢字を書こう。

(1) 風 □ 画

(2) □ 察

(3) 天 □ の石

(4) □ 師

③ 「漁」の正しい読みに○をつけよう。

(1) 漁業 ギョ りょう

(2) 漁師 ギョ りょう

答え 1. (1) けい (2) かん (3) ぜん (4) ぎょ 2. (1) 景 (2) 観 (3) 然 (4) 漁 3. (1) ぎょ (2) りょう

全体と中心

🔍 たしかめ --- 🗣️ いっしょに --- ✎ やってみよう (3もん)

📖 きょうの
めあて

話や文章の「全体」と「中心」の関係をつかもう

🔍 しょうかい文のれい

しょうかい文：わたしの町には、大きな川がある。川ぞいには さくらの並木^{なみき}があり、春には花見をする人が多い。夏には花火大会が開かれ、秋には川原で ススキがゆれる。わたしの町の川は、季節ごとに いろいろな楽しみ方ができる場所だ。

🗣️ いっしょにやってみよう

れい この文章の中心は？

① 全体：町の川のこと。

② いちばん言いたいことは最後の文。

③ 中心 季節ごとに
いろいろな
楽しみ方ができる

✎ やってみよう

♡ できたところまでで OK

① 中心をささえる くわしい内容^{ないよう}に当たるのは？

☐ 春の花見・夏の花火大会・秋のススキ

☐ わたしの町には、大きな川がある

② この文章に題名をつけるとしたら？

☐ 季節を楽しめる町の川

☐ 花火の作り方

③ 「冬」の様子を一つ考えて、くわしい内容^{ないよう}に加える文を書こう。

答え

1. 春の花見・夏の花火大会・秋のススキ 2. 季節を楽しめる町の川

3. 例：冬には、川に白い鳥がやって来る。

慣用句を使って文を作ろう

🔍 たしかめ --- 🗨️ いっしょに --- ✎ やってみよう (3もん)

📖 きょうの
めあて

かんようく

慣用句の意味に合う場面を考えて、文を作ろう

🔍 まず、たしかめよう

- 慣用句を使うときは、**意味に合う場面**かどうかをたしかめる。
- ○ なぞがとけて、むねがすっとした。
- × 走ったので、むねがすっとした。 ...つかれたときには使わない

🗨️ いっしょにやってみよう

れい 「〇をそろえる」の文を作ろう。

- ① 意味：みんなが同じことを言う。 ▶ ② 何人かが同じことを言う場面を考える。 ▶ ③ れい：三人が〇をそろえて「おいしい」と言った。

✎ やってみよう

♥️ できたところまでで OK

① 「足が棒^{ぼう}になる」の使い方が正しいのは？

- ☐ 一日中歩き回って、足が棒^{ぼう}になった。
- ☐ 足が棒^{ぼう}になるほど、ぐっすりねむった。

② 「耳がいたい」の意味は？

- ☐ 自分の悪いところを言われて、聞くのがつらい
- ☐ 大きな音で、耳がいたむ

③ 「〇をそろえる」を使って、文を作ろう。

答え

1. 一日中歩き回って、足が棒^{ぼう}になった。 2. 自分の悪いところを言われて、聞くのがつらい
3. 例：見に来た人たちが、〇をそろえて「きれいだ」と言った。